様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １６ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ１２５２１

研究課題名（和文）18-20世紀におけるボンベイ市の経済発展　-インド史からの再考

研究課題名（英文）The Economic Growth of the Bombay city in the 18th to the 20th century: new perspectives from indian history

研究代表者
小川　道大（Ogawa, Michihiro）

東京大学・東洋文化研究所・准教授

研究者番号：３０７１２５６７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、前植民地期の18世紀においてはボンベイ市を含めた沿岸の港町から内陸に向かう商品の多くが、マラーター同盟の中心都市であるプネー市に集められた後に、各地に再分配されていくことを示した。1853年のボンベイ市における鉄道開通が、ボンベイ市とその後背地の関係に大きな影響を生じさせたことを示した。その後、ボンベイ島周辺の埋め立てが進み、港湾施設が拡充した結果、ボンベイ市はインド西部の政治経済の中心都市となった。ただしプネー市も鉄道ネットワークに接続することで内陸の商業拠点としての地位を保っており、同市の19世紀後半以降の経済発展に関しては改めて検討する必要がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、英語と現地語であるマラーティー語史料を分析することで、前植民地期から植民地期にかけてのボンベイ市の発展を連続的に考察した。その結果、ボンベイ市の後背地であるインド西部の諸地域が1818年に英領となっても直ちに、ボンベイ市と後背地の関係は変化せず、ボンベイ市自体も鉄道開通後に大きく発展したことを示したのが本研究の成果である。イギリスの拠点であったボンベイ市でさえ、本格的な植民地化によって直ちに変化したわけではなかったこと、そしてその変化は技術革新とともにあったことを示したことは、アジアの植民地化および近代化を考える上で極めて重要なことであり、本研究の学術的意義である。

研究成果の概要（英文）：This project made it clear that much merchandise was carried from port-cities including Bombay to Pune, the central city of the Maratha Confederacy first, and then re-distributed in different directions. The opening of the railway from Bombay in 1853 strongly affected these relations between Bombay and its hinterland. The reclamation of land around the Bombay island and the development of its port facilities after this opening led to the growth of Bombay as the econo-political center in Western India, However, Pune, to which the railway networks were connected, remained one of inland commercial centers. Its growth after the late nineteenth century will be considered in future.

研究分野：インド社会経済史

キーワード：ボンベイ　マラーター　植民地化　交易

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

ボンベイは、インド西部における英領インドの中心都市として、19 世紀におけるインド西部の植民地化とともに発展したことが先行研究によって明らかにされてきた。より具体的には、インド洋貿易のハブの一つとして、そして近代綿業の拠点として、ボンベイがインド経済の中心都市となったことが示され、グローバル経済の中で、そしてインド経済全体の中にボンベイ市が位置づけられてきた。インド西部内陸部の社会経済史を専門とする本報告者は、先行研究を参照する中で、よりローカルな視点でボンベイの発展を再考する着想を得た。

２．研究の目的

本研究の目標は、インド西部の社会経済史の中にボンベイ市の発展を位置づけることである。この目標を達成するために、本研究では２つの課題を設定した。第 1 の課題は、ボンベイ市と後背地であるインド西部内陸部との関係を、特に交易に注目して考察することである。第 2 の課題はボンベイ市内部の発展、特にその市場形成について考察することである。従来の研究では、広い視野でボンベイ市の発展が考察されてきたが、この発展による内部の変化について十分に考察がなされてこなかった。そこで本研究では、ボンベイ市内部の分析を第 2 の課題とした。

本研究では、インド西部内陸部が英領となる以前の 18 世紀より分析を始め、20 世紀初頭に至るまでの長期的視野で、ボンベイ市の発展を考察する。

３．研究の方法

研究手法の視点から注目すべき本研究の特徴は、インド西部内陸部が植民地化する以前の 18 世紀に遡って分析を行うことである。ボンベイ市の直接の後背地にあたるインド西部内陸部を支配したマラーター同盟がイギリス東インド会社に滅ぼされる 1818 年以前の史料に関しては、現地語のマラーティー語で記されたマラーター同盟宰相政府の記録を用いる。同史料の大部分は、マハーラーシュトラ州立文書館プネー分館に収蔵されており、流通に関わる史料として、本研究では、宰相政府が徴収した通関税（Jakat）の記録を用いた。前植民地期の分析に関しては、文書館史料に加えて、『サタラ王および宰相日誌（Satara Rajas' and Peshwa Diaries）を補助的に用いた。

植民地期のボンベイ市と後背地との交易を分析するために、本研究では複数の統計資料を用いた。第 1 は「ボンベイ管区の航行と貿易に関する年次報告書(Annual statement of the trade and navigation of the Presidency of Bombay)」であり、19 世紀半ば以降のボンベイ管区の外国貿易と沿岸交易が扱われており、特に主要港（ボンベイ市）の記録に注目する。第 2 の統計資料である「ボンベイ管区における鉄道および河川貿易に関する年次報告書（Report on the Rail-Borne Trade of the Bombay Presidency)」は、1881 年以降のボンベイ管区と英領インド各地を結ぶ鉄道交易の統計である。この資料では、大インド鉄道（The Great Indian Peninsular Railways）とボンベイ・バローダおよび中央インド鉄道（Bombay, Baroda and Central India Railway）の終着駅であるボンベイ市が、鉄道交易統計の 1 ブロックを形成しており、同ブロックと連関する鉄道交易記録に注目する。第 3 は 1873 年に結成されたボンベイ港トラストの年次報告書(Administrative Report of the Bombay Port Trust)であり、1874 年以降のボンベイ市内で、ボンベイ港トラスト管理下にある港の交易統計が収録されている。1881 年以降について、これらの統計資料を合わせて、ボンベイ市の域内交易を分析した。

マラーター同盟が崩壊し、インド西部内陸部が直ミンチとなった 1818 年から、複数の統計資料による分析が可能となる 1881 年までの期間については、マハーラーシュトラ州州立文書館ムンバイ本館や大英図書館インド省記録の史資料を用いて分析を行った。

４．研究成果

ボンベイ市とインド西部の後背地との関係について以下のように整理できる。

前植民地期の交易を分析する史料は主に通関税記録であったが、マラーター同盟宰相政府とイギリス東インド会社ボンベイ管区は通関税の免税協定を結んでいたため(Mahajan 1989)、通関税記録によってボンベイ市からの東インド会社による商品流通を追うことは不可能であった。しかしボンベイ市で活動する現地商人が運んだ商品の経路の一端は、通関税およびその関連記録から明らかになった。ボンベイ市と、マラーター同盟宰相政府が置かれたプネー市の間では、宰相政府の通関税請負人（Jakatdar）と契約を結び、商品に課されるボンベイ市・プネー市間の通関税を一括で支払った運送業者(Hudekari)が活動しており、彼らは商品を通関税徴収のために関所で止まることなくボンベイ市からプネー市まで運んだ。ボンベイ市の現地商人の中には、この運送業者(Hudekari)と少なくとも複数年に及ぶ契約を結び、商品をプネー市に運んでいた。プネー市に運ばれた商品は、同市に消費されたり、さらに内陸に運ばれたりした。プネー市より内陸には、18 世紀には綿花・綿布交易の内陸拠点の一つとなっていたソーラプール市などが位置

していたが、一括で通関税を支払う運送業者(Hudekari)の活動は、ボンベイ市・プネー市に比べて非常に限られていた。

図 1 は、プネー市（D）とソーラプール市（N）との間に位置するインダプール町（S）の通関税記録に見られた町(Qasba)の位置を示している。インダプール町の記録によると、プネー市（D）からの商品は、同町に届くまで、何度も関所で止まって運搬者が通関税を払ったが、この時にしばしば商品は売買され、何度も積み直されながら進んでいた。インダプール町からソーラプール市（N）へも、時には遠回りをして O 町・P 町・Q 町経由で、商品が積み直されながらソーラプール市（N）に至っていた。他方で、プネー市からソーラプール市（N）のみを経由して、ハイダラーバード市（L）まで運送業者（Hudekari）によって商品が運搬される場合もあり、都市間と町間の運送契約や状況は大きく異なることが明らかになった。ボンベイ市（A）からの商品は、都市間運送によりプネー市（D）に運ばれ、プネー市周辺地域に対しては町間運送により、何度も商品が積み直されて流通した。他方で、プネー市（D）から都市間運送で、ソーラプール市（N）やハイダラーバード市（L）へ商品が運ばれた。

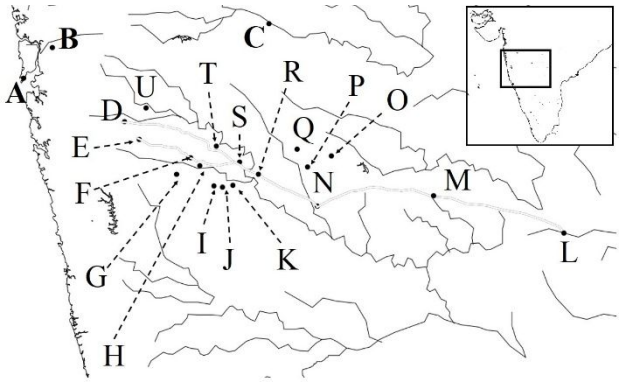

図 1: プネー以東の町(Qasba)分布

このような状況は 1818 年のインド西部の植民地化によってもすぐには大きく変わらなかった。制度的には 1820 年代後半の通関税(Jakat)廃止および内陸交通路の整備によって、町間輸送は都市間輸送に近づくことがボンベイ政府によって期待された。しかし実際には、通関税は記録権益と結びつき、図 1 の地域内には中小の藩王国が点在し、彼らは通関税を従来通りに徴収しようとしたために、少なくとも 19 世紀前半においては大きな変化が見られなかった。

内陸の交通の変化は 1853 年の大インド鉄道開通により、1820 年代の制度的変化とは全く異なる形で実現した。図 1 で鉄道駅となったのは、ボンベイ市（A）、プネー市（D）、ソーラプール市（N）とハイダラーバード市（L）であり、図 1 の町とは異なる複数箇所に新たな鉄道駅が設けられた。鉄道によりボンベイ市は、綿花やアヘンの供給地と直接に結び付けられ、鉄道駅を中心にボンベイ市とインド西部内陸の交易関係は再編された。図 2 は、1900 年のボンベイ市への綿花移入額を示した図である。赤は鉄道交易を示し、デカンの複数の綿花地帯から当該商品が運ばれてきたことがわかる。他方で青は沿岸交易によるボンベイへの綿花移入額を示しているおり、左下の青丸はボンベイ管区内の諸港からの額の総計を示しており、その額は鉄道による移入総額には及ばないものの、個別のどの綿花栽培地域よりも多額の綿花を移入していることを示しており、ボンベイ市とインド西部諸港との沿岸交易は継続していたことがわかる。

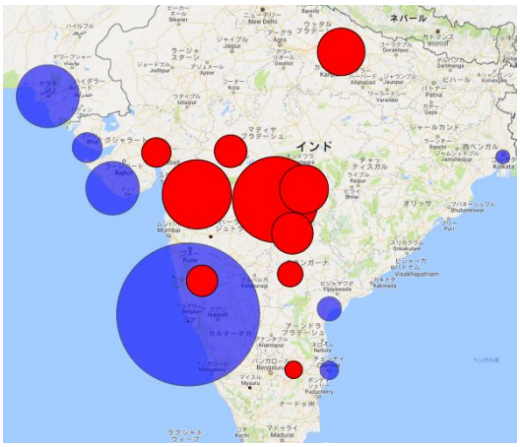

図 2：1900 年のボンベイ市への綿花移入額

ボンベイ市とインド西部の内陸部および沿岸部との関係の変化は、複数の商品を対象にして、より多角的に分析する必要があり、本研究でも綿花以外の商品分析を行っているが、象徴的な事例として図 2 を示す。鉄道ネットワークの形成により、ボンベイ市がインド西部の経済の中心となったことは明らかであるが、プネー市も鉄道駅をもち、20 世紀初頭においても内陸の商業拠点の一つであり続けた。今後は、より詳しい分析が必要となる。

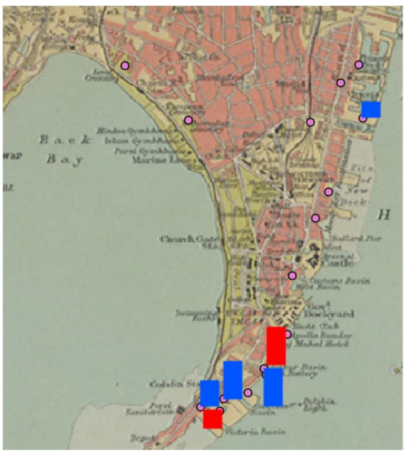

図 3: 1899 年のボンベイ市の綿花交易港

鉄道により内陸部と、より直接的に結びつけられて以降、ボンベイ市ではコットン・ブームの影響などもあり、1860 年代以降に港湾施設が拡充されていった。図 3 は、1899 年のボンベイ市内の綿花交易に携わった港の位置を示している。赤は輸出、青は輸入を示している。図 3 のさらに北には、巨大な係留ドックが 1880 年代に建設され、その地が綿花交易の中心となった。他方で 1896 年にボンベイ・バローダおよび中央インド鉄道が島の南端まで延長され、図 3 はボンベイ島の南端にもまた、鉄道と港が結びついた綿花交易の拠点が形成されていたことを示している。

鉄道は、インド西部内陸部とボンベイ市との関係を変化させただけではなく、ボンベイ市の経済構造をも変化させたことを図 3 は示している。経済構造のみではなく、これに伴ってボンベイ市の社会関係に変化が見られたのかという疑問が生じた。こ

れは、新たな課題となる。

プネー市の 20 世紀初頭の状況が示しているように、鉄道ネットワーク形成によって、ボンベイとインド西部の関係は大きく変わったが、ボンベイのみが発展したわけではなかった。変化のみに注目するのではなく、都市の隆盛などについて 18 世紀からの連続にも考慮して、都市間関係を考察する必要がある。

参考文献

T.T.Mahajan, *Industry, Trade and Commerce during Peshwa Period*, Jaipur: Pointer Publishers, 1989.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 Michihiro Ogawa	４．巻 122
２．論文標題 Changes in State Rule and Rural Society in 18th-Century Western India: With a Focus on the Land Revenue System under Maratha Rule	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Acta Asiatica Bulletin of the Institute of Eastern Culture	６．最初と最後の頁 55-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Michihiro Ogawa	４．巻 4
２．論文標題 Reconsidering the Caste Construction in Early Modern Maharashtra	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Mizuho Matsuo and Michihiro Ogawa eds., The Caste Formation in Maharashtra, MINDAS Series of Working Papers	６．最初と最後の頁 27-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 小川道大、高島淳、高畑倫志、小倉智史、澁谷俊樹、足立享祐	４．巻 30
２．論文標題 第6回シンポジウム　ヒンドゥイズム再考　－時代を超えた変動とその余白－	５．発行年 2020年
３．雑誌名 南アジア研究	６．最初と最後の頁 141-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11384/jjasas.2018.141	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 戸石七生、松本武祝、近藤諒一郎、山田七絵、小川道大	４．巻 27-4
２．論文標題 ベジタリアン食の類型化におけるグローバルスタンダードの可能性	５．発行年 2021年
３．雑誌名 フードシステム研究	６．最初と最後の頁 214-219
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5874/jfsr.27.4_214	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小川道大	4．巻 0
2．論文標題 「プネー　インド西部における政治都市の経済発展　マラーター同盟下の18世紀」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 古田和子（編）『都市から学ぶアジア経済史』慶応義塾大学出版会	6．最初と最後の頁 35-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Michihiro Ogawa	4．巻 0
2．論文標題 The Spatial Analysis of the Transition of the Land Revenue System in Western India (1761-1836), with special reference to Indapur Pargana	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Bina Senegar and Laurie Hovell McMillin eds., Spaces and Places in Western India Formations and Delineations, Routledge (London)	6．最初と最後の頁 35-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4324/9780429343698	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 小川　道大、近藤　則夫	4．巻 2018年度版
2．論文標題 「問題を内包しつつも安定した政権運営を続けるモディ政権：2017年のインド」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 アジア動向年報	6．最初と最後の頁 481-514
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24765/asiadoukou.2018.0_481	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計21件（うち招待講演　3件／うち国際学会　12件）

1．発表者名 小川道大、田口宏二朗
2．発表標題 「空間・分配・秩序　：土地制度をめぐる中印比較」
3．学会等名 第90回社会経済史学会全国大会
4．発表年 2021年

１．発表者名 Michihiro Ogawa
２．発表標題 A Study of Socio-Economic Change and Continuity under the Colonization in Western India with a Focus on the Land Revenue System from the Late Eighteenth Century to the Early Nineteenth Century.
３．学会等名 The second International Conference on Indian Business & Economic History（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Michihiro Ogawa and Seemanta Sharma Bhagabati
２．発表標題 Scientific and historical approaches to revisit the Great Famine (1876-1878) in Western India
３．学会等名 The Sixth Biennial Conference of East Asian Environmental History（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Michihiro Ogawa
２．発表標題 Circulation of Silver Coins in the Period of the Transition from the Maratha rule to the British rule with a Special Focus on Western Maharashtra from the 1780s to the 1840s
３．学会等名 The Nineteenth International Conference on Maharashtra Society and Culture（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Seemanta Sharma Bhagabati and Michihiro Ogawa
２．発表標題 Meteorological Characteristics of the Great Famine in Deccan Plateau in the Nineteenth-Century India.
３．学会等名 The Eighth International Conference on Asian Network for GIS-based Historical Studies（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Michihiro Ogawa
２．発表標題 Sharing of Local Knowledge in the Process of Colonization in Western India: Comparison of Historical Documents in Marathi and English in the Early Nineteenth Century
３．学会等名 the Association for Asian Studies, Annual Conference（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Michihiro Ogawa
２．発表標題 The Economic and Political Transitions from the Pre-Colonial to the Colonial Period in Western India focusing on the land revenue system in Indapur Pargana during the period (1761-1836)
３．学会等名 Grant-in-Aid for Scientific Research (B) Workshop on A Statistical Study of Indian Ocean Trade: Towards a Reappraisal of Regional Trade in Modern World History (organized by Prof. Kaoru Sugihara)
４．発表年 2021年

１．発表者名 小川道大
２．発表標題 18世紀後半デカン地方西部における軍馬の政策とその影響　－マラータ同盟インダプール郡に注目して－
３．学会等名 慶應義塾大学「経済史演習」特別講演（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Michihiro Ogawa and Seemanta Sharma Bhagabati
２．発表標題 Reconsidering the Great Famine of Western India (1876-1878) from Meteorological and Hydrological Perspectives
３．学会等名 AAS (Association for Asian Studies) 2021 Annual Cinference（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Michihiro Ogawa
２．発表標題 "Reconsidering the Great Famine of Western India (1876-1878) from A Metrological Perspective"
３．学会等名 The Third World Congress of Environmental History（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 小川　道大
２．発表標題 「地税徴収制度にみる18-19世紀のインド西部の農村社会の変化」
３．学会等名 東方学会2019年度秋季学術大会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Michihiro Ogawa
２．発表標題 “Colonisation of Western India in the Early Nineteenth Century Reconsidered: Emphasizing the Land Revenue System Transition from Pre-Colonial to Colonial Periods”
３．学会等名 The Third Asian Consortium for South Asian Studies Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Michihiro Ogawa
２．発表標題 A Study of Recent Trends in Politics of Madhya Pradesh: through the GIS Analysis of State and National Elections
３．学会等名 International Conference on "Globalizing Life World and Transformation of Political Sphere"
４．発表年 2019年

１．発表者名 小川　道大
２．発表標題 「小川道大著『帝国後のインド：近世的発展のなかの植民地化』（名古屋大学出版会、2019）　をめぐって」
３．学会等名 社会経済史学会近畿部会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Michihiro Ogawa
２．発表標題 Reconsidering the Great Famine of Western India (1876-1878) from Perspectives on Mortality and Climate
３．学会等名 AAS (Associate Asian Studies) in Asia（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Michihiro Ogawa
２．発表標題 The Activities of European Merchants under the India Monetary System in Western India with Special Reference to Bombay and Pune in the Late Eighteenth Century
３．学会等名 XVIII World Economic History Congress（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Michihiro Ogawa
２．発表標題 Reconsidering the village community in the 18-19th century Western India
３．学会等名 日本南アジア学会全国大会（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 小川　道大
２．発表標題 「ヒンドゥイズム再考：時代を超えた変動とその余白」趣旨説明
３．学会等名 日本南アジア学会全国大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Michihiro Ogawa
２．発表標題 Reconsidering the Great Famine (1876-1878) in Western India from a meteorological perspective
３．学会等名 Indo-Japan Joint Workshop: Socioeconomic/Hydroclimatological Perspectives of Future Asian Monsoon
４．発表年 2019年

１．発表者名 Michihiro Ogawa
２．発表標題 Governance of Natural Resources and Land Use in Western India from the 18th century to the 19th century
３．学会等名 JSPS-ICSSR Bilateral Joint Research Project, International Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 小川　道大
２．発表標題 マラーター王国・同盟における公文書の様式とその変化
３．学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（AA研）共同利用・共同研究課 題「近世南アジアの文化と社会：文学・宗教テクストの通言語的比較分析」の研 究会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計2件

1．著者名 Mizuho Matsuo and Michihiro Ogawa (eds.,)	4．発行年 2022年
2．出版社 Centre for South Asian Studies at the National Museum of Ethnology (MINDAS)	5．総ページ数 80
3．書名 The Caste Formation in Maharashtra: MINDAS Series of Working Papers: Vol. 4	

1．著者名 小川　道大	4．発行年 2019年
2．出版社 名古屋大学出版会	5．総ページ数 448
3．書名 『帝国後のインド　近世的展開のなかの植民地化』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関